

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102491		
法人名	社会福祉法人みどり福祉会		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岐阜市北山1-15-25		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町村受理日	令和3年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102491-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102491-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が出来る限り穏やかに、人間らしい生活が送れるように、外出や近隣の散歩、地域主催のほっとサロン、地域の夏祭り、喫茶店など少人数ですが出掛けています。身体、精神的に低下して行く中、出来る事が継続して出来る様に家事仕事を中心に行って頂き生活をしています。個人個人の思いを尊重しながら集団生活を生かして、ゲームや百人一首を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、理念のひとつである「利用者の人権を尊重し、利用者が出来る限り家庭に近い環境で職員の手を借りながら、その人らしい生活ができるように支援します」を、常に意識し支援を行っている。現在、新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため、外出を自粛中であるが、利用者は、近くの保育所の子ども達が手を振って散歩をしている姿を見るのが楽しみになっている。毎月、利用者の1週間の様子を文書にまとめ、家族に郵送している。管理者と職員は、介護の知識や技術を共有し、このコロナ禍を乗り越えられるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事はコロナ禍で参加できない状況。運営推進会議は書面で行い、助言を頂き、さらなる進展に繋がるように努めている。	法人の理念とホームの運営理念を、事務所と廊下の目につきやすい所に掲示している。会議では、理念を正しく実践できているか、さらに課題点を話し合うなど、情報を共有し声をかけ合いながら、支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動も以前は参加していたが、コロナ禍で困難になってしまった。近場での外出を行い、近所の方々と挨拶や距離を取っての会話などで恋流をはかっている。	感染予防・拡大防止の為、地域活動は中止となっているが、利用者の散歩時には、近所の人や近くの保育所の子供達と挨拶を交わしたり、手を振るなどで交流している。食材は近所のスーパーで購入したり、近隣住民から収穫した野菜の差し入れがあるなど、地域との付き合いは継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、地域の人との交流も図れない。運営推進会議は書面で行っているがホームの状況を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課の方や地域包括の方に、他施設の情報を教えて頂いたり、民生委員さんからは書面にて助言を求めている。	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染予防対策として、書面開催としている。構成メンバーから質問や意見を聞き、回答を含めて議事録とし、利用者とホームの現状報告・ヒヤリハットや事故報告・身体拘束等についてまとめ、配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事等、電話で相談させて頂いたき、連携に努めている。	現在、報告や相談・助言などは電話での対応が多いが、新型コロナウイルス感染症対策の最新情報等はメールで配信がある。行政担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から情報を共有し、連携できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行わない。どうしても必要時は、職員で話し合い、家族の同意を得て、期間を決めて行う。その後はアセスメントしながら、職員同士で意見交換を常に行い、無くす方向に繋げている。3か月に1回身体拘束適正化の会議を行っている。	身体的拘束等適正化対策検討委員会を3ヶ月に1回開催している。職員は身体拘束について学びながら、委員会議事録で確認し、正しく理解している。日頃から、職員間で支援方法について話し合いながら情報を共有し、伝達講習会も行っている。	身体拘束について、具体的な事例で検討し、正しく理解する為に外部研修の受講者から伝達講習がある。職員はスピーチロックやグレーゾーンについても情報を共有し、支援に繋げている。今後も、継続されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	岐阜民医連の学習会で、年1回開催されている学習会に職員が参加。人権尊重の為、やってはいけない事を職員に周知している。		

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	岐阜民医連の学習会で、年1回学び、必要な方があれば支援方法を相談し、情報を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明を行い、分からない事は無いか聞き、同意を頂いてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方に、投書箱の確認をお願いしている。家族アンケートを行い、貴重な意見を頂き、改善点是对応出来る様に努めている。	職員は、家族の訪問時や電話等で意見を聞いている。また、投書箱やアンケートでの意見、利用者からの要望等を運営に反映させている。毎月、請求書の送付と共に、「ある1週間の利用者の様子」を文書にして、家族に郵送している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見を聞いて、話し合いをしている。出された意見を管理者に報告したり、労働組合で交渉して対応している。職員会議以外でも職員の意見を聞くように努めている。	管理者も職員と共に現場に従事しており、直接、職員の希望や意見を聞きながら、その都度、解決できるよう対応している。管理者と職員の信頼関係が構築されており、雰囲気も良く、代表と共に、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員会議や個別面接、労働組合との交渉を通じて、少しでも向上心を持って、働ける職場作りを目指している。働き甲斐レポートを作成し職員で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	岐阜民医連の学習会や介護職や他職種との交流会への参加を通じ、力量アップや介護職員同士の交流を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜民医連内の介護交流会集会や外部研修、GH協議会の会議等に参加させて頂き、他事業所の交流を図っている。昨年度はオンラインが多く交流が難しくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入にあたり、本人様の希望や意見、家族様の要望を取り入れ安心に生活して頂けるような信頼関係の構築に取り組んでいる。幼少時代から分かる範囲で情報を頂き、ケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の意見や要望はもちろん、家族様の意見や要望、どのような生活を送りたいか、しっかり把握し面会時には生活の様子をお伝えし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態をしっかり把握し、何が必要かを見極め、外部のサービスが必要な場合はご家族様と相談しながら行っていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全て介助を行わずに出来る事は行って頂く。他者との関係づくり、相性等を考え配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限を設けている中、家族様には面会時や電話にて日頃の様子や変わった事等をお伝えし、日々の様子を月一度請求書と共にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があればご家族様や職員で、外出支援を行う。他のサービスを利用し関係の継続に努めている。	コロナ禍の今、面会制限もあり、馴染みの人と気軽に会うことは難しい。また、外出支援の自粛で、近所の散歩とドライブで景色を楽しむ程度に留めている。自由に馴染みの場所へ行けない為、写真やタブレットを利用し、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月職員会を行い、利用者の状況について話し合い、個々の関係で孤立しないように、どのように対応していくかを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され契約が終了した後でも、ホームで協力できる事があれば対応するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望をお聞きし、どのような暮らしをしたいか把握するように努めている。困難な場合はご家族様にお聞きしたり生活歴や性格等から本人本位に検討しケアプランを作成するように努めている。	職員は、日頃から利用者が心地よく生活できるよう、思いや意向を尋ねている。表現が困難な利用者は、答えやすい質問をしたり、何気ない話を拾い上げている。家族からの情報も把握し、会議や申し送りでも共有しながら、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、ご本人様の生活歴を家族様や本人様にお聞きしそれを把握して継続出来る様に、話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の聞き取り調査や、入所後の日々の日常の中で、心身の状態や出来る事、出来ない事を把握するように努め、出来る力を継続して頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族や他職種からも意見を募り、ホームでのより良い生活の為にケアプランを作成している。	利用者の介護計画は、家族・医師・看護師などから情報を収集し、利用者の希望と職員の意見をまとめ、ケアマネジャーが作成している。利用者の状況に変化があれば、モニタリングと計画の見直しを行い、情報の共有をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を記入して、ケアプランや、日々のケア内容の評価判断に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内で対応出来るご本人、ご家族のニーズは、職員間で検討し対応に努めたり、他のサービスで対応出来る情報があれば、相談しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には参加出来ていないが、社会情勢が改善されれば、支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の意志を尊重し、同意が得られればかかりつけ医を受診して頂く。希望があれば他医療機関を受診して頂く。	契約時に、かかりつけ医について丁寧に説明し、利用者と家族が決めている。協力医は月2回の往診があり、助言を受けながら情報を共有している。眼科など専門医への受診は家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、訪問看護に来て頂いて、状況を把握して頂き変わった事があれば受診に繋げる。日々の情報共有や相談をさせて頂き、急変に対応出来る様に連携を強めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診に来て頂いたり、協力医療機関と連携を取り対応している。相談にも対応して頂いている。入院した際にはその都度、状況を把握するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、終末期に関して事前にホームが、何処まで対応できるかをお話しし、その中で医療機関なのか、他施設なのか、ホームで対応するのかを、ご家族、医療機関との話し合いを持って対応している。	契約時に、重度化や終末期のホームの対応について説明している。利用者の状態が変化した場合、その都度、医師から病状の説明を受け、利用者と家族の望みを確認し、職員と関係者で情報を共有しながら、支援に取り組んでいる。	事業所は看取りの経験がある職員が少ない。急変時の対応や利用者と家族への接し方、職員の心のケアも含めて、継続した看取り介護の研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の指導で年1回、救急救命蘇生の方法を学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウスとの合同で消防訓練は年2回開催している。1回は地震と火災発生訓練、1回は夜間火災発生想定で地域自治会の協力を得て実施した。	同じ建物のケアハウスと合同で、夜間想定も含めて年2回計画的に行い、運営推進会議で報告している。利用者と職員分の備蓄の確保はできており、定期的に点検を行っている。自家発電装置を設置し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を尊重して対応出来る様に努めている。職員が対応に困る時は、職員間で交代しながら穏やかに対応出来る様に、努めている。また、個室対応などプライバシーには配慮している。	職員は、常に理念を意識して、利用者の支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや接し方、プライバシーの確保ができていないか、職員間で確認しながら注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中やアセスメントから本人の思いや希望を引き出し、自己決定出来る様な声かけを行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の時間の中で決まったことはあるが、個人のペースで生活して頂けるようにしている。朝ゆっくり寝られたい方は無理に起こさず、自発的に起きて来られるのを待ち、それから食事をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や、整髪等、身だしなみに気を付けている方は、自由にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好品や、嫌いな物を把握して、苦々な物の時は代替品えお用意し食べて頂いている。食事作りなど、出来る方が少なくなってきたり、お手伝いして頂ける時は無理のないように行って頂いている。	朝食と夕食、行事食も職員の手作りである。利用者が楽しく食べることができるよう、盛り付けを工夫し、嚥下機能などを考慮し、個々の状態に合わせた形態で提供している。利用者は、テーブル拭きなど出来る事を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や栄養面が少ない方は、摂りやすい物を提供している。好みを把握し代替え出来る物は行い、栄養バランスが確保出来る様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。介助したり、声かけ、見守りしながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る方は、声かけを行い定期的に誘導している。オムツ使用の方も、二人介助でトイレに座って頂く事もしている。	おむつ使用の方も、トイレでの排泄が習慣化できるよう、複数介助で支援したり、個々の排泄パターンを把握してさりげない声かけと誘導をしている。安全対策として、居室のベッドサイドにポータブルトイレを設置し、転倒予防に努め、排泄の自立に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂いたり、歩く等の運動して頂き、対応している。それでも出ない方は薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回入る方、一日おき、二日おきの方と個々の思い、状態に合わせて対応している。声掛けを行い入るか自己決定して頂いている。	入浴は個別対応で支援し、ゆっくりと話をしながら、コミュニケーションを図っている。また、利用者の状態に合わせて、2人介助でも対応している。基本は週2回だが、利用者の希望を受け入れ、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さまのペースで休んで頂いている。昼寝をされたり、夜間眠れない方は、職員室やフロアまで来られ、飲み物を飲んで頂いたりテレビを観たりされる。その方々に合った対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋を頂くので、ファイルに閉じて、直ちにわかる様にしている。また、申し送りノートに、変化があった時は、記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活状況によって、出来る事をやって頂いている。支援が必要な方は、一緒に家事仕事や散歩、外出して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが散歩に出かけられるように支援している。以前は車に乗ってお出かけしていたが、コロナ禍の為難しくなっている。その中で感染リスクの低いドライブ等で外出支援をしている。	コロナ禍にあるが、日常的な外出は、感染予防に努めながら近所を散歩したり、車から景色を見るドライブで気分転換を図っている。今後は、感染防止対策を徹底しながら、行政からの情報も参考にし、紅葉狩りなどの外出支援を検討している。	

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額でもお金を管理出来る方は、ご家族と相談して持って頂いている。難しい方はこちらで管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたい方は、ホームから掛けて頂いている。手紙のやり取りも支援させて頂くが現状あまりいらっしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自然な物を取り入れて、花等飾って季節感を出せるように努めている。周囲は出来るだけ、みどりを多く取り入れている。	共用の空間は、特に、こまめな消毒と換気で感染予防に努めている。窓からは、道行く人の声が聞こえ、外の景色を眺めることができる。壁には、季節感ある利用者の作品を掲示している。車椅子の自操も安全にできる広い居間には畳コーナーもあり、利用者が好きな場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置く事で、外の空気を吸って頂いたり、フロアではソファを設置している。フロアでは基本的に席を決めているが、空いている所は自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、タンスや椅子、なじみのある物を持って来て頂いて使用して頂いている。	今年度は感染防止対策として、居室には入室せず、廊下からの確認とした。ドアの横には表札があり、使い慣れた筆筒やテレビ、冷蔵庫などを持ち込み、壁には家族の写真や作品が掲示してある。室内は整理整頓され、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせて、簡易手すりを使用したり、怪我のない様に、家具材を保護したり、個々の自立した生活に努めている。		